



潮寿荘

伏見眞佐子

平成29年12月15日発行
発行：特別養護老人ホーム
潮 寿 荘
記事：12月担当潮寿荘職員
編集：潮寿荘だより編集委員
題字：伏見眞佐子(90歳)

勤労感謝の日

バイキング

11月23日。勤労感謝の日。

潮寿荘では、潮寿荘メニューの中から職員の食べたい物のリクエストを聞いてメニューを決めるといふ『勤労感謝バイキング』が恒例となつています。職員は自分の食べたいものを好き放題書きました。キムチ鍋や唐揚げなど、いろいろありました。その中で『雷門寿司』(ガイブックでもおなじみグルメに評判のお寿司屋さん)と書いた斎藤介護士。もちろんその願いは叶うこと無く散りました。



ドプリン、プチケーキ、と豪華なご馳走がたくさんで雷門寿司を食べる事ができなかった斎藤介護士も「うまくいった。満足」と言っていました。私もバイキングを楽しみにしていたのですが、その日はなんと夜勤明け。とても残念でした。後日どうだったか職員に聞いてみると「カレー炒飯と



愛の一針運動 函館市赤十字奉仕団より



いつもありがとうごさいます

エビチャーハンの黄色と白のコントラストが面白かった。おいしいね、と朋子さん、おいしいわとキヨさんとホールには幾つもの美味しいねの笑顔の花が咲いていましたよ」と内村介護士が教えてくれました。私も食べたかったなあという残念な気持ちと入居者の皆さんが笑顔で食事を楽しめて良かったなという嬉しい気持ちになりました。こうして11月23日の勤労感謝の日バイキングは入居者の皆さんも職員も大満足で終わったようです。そしていつも、栄養と美味しいご飯と笑顔を与えてくれる厨房の方々に感謝です。来年の勤労感謝の日は仕事だったらいいなあ(よく笑い時々転んでいる元気でにぎやかな二十歳の介護士・高島)

入居者エピソードそのいち



泉介護士 静子さん

4ヶ月ほど前に入居された静子さん。笑顔がとてもステキで全身から優しさがガッポリにしみ出ている方なので、すぐに他の入居者さんや職員とも仲良くなり、元気に過ごされています。静子さんには、僕が静子さんの身体の向きを変えている時に必ず僕のお尻を優しくなでてニヤニヤするというおちやめな一面もあります。先日、僕の息子と嫁を静子さんに紹介したときのことです。息子を連れて静子さんの部屋に行くと、いつも以上の笑顔で「あらあ、めんこちゃん♪」と言い「抱っこしてあげるからおいで」と手を伸ばすと、なんと人見知りの息子が珍しく、自ら抱っこされにいきました。そして抱っこしてる静子さん手を何気なく見ると、優しい手つきで息子の尻をなでていました。これで僕の軽い誤解が解きました。あの尻をなでるのは、いやらしさなど全くない、静子さんの愛情表現なのだ。

(パーマをかけたら家族から絶不評。思わぬ反応に悲しむ介護士・慶佑泉)

インスタ映えない!

でもおいしい!

毎月恒例の特別喫茶。11月は原宿で人気の「レインボーカラー」の大きな綿あめ」を潮寿荘でも作ってみよう。という柏原施設長の提案で「インスタ映え!原宿系綿あめ」を決定しました。本来は、ざらめに元々色がついた物を使用しますが、「今回はざらめを食紅で色付けしちゃう」とのこと、ざらめを溶かしかき氷シロップで少々味付け。食紅は「ピンク・青・みどり・オレンジ・黒」の5色を用意し、ざらめと混ぜ合わせた物を冷凍庫で冷やし用意した



恵美子さん



のですが、そのうちの2色が見事に固まっておらず、「ピンク・青・黒」のレインボー色にはならない3色で綿あめを作ることになりました。ピンクの綿あめはほんのり色づいてイチゴ味、青はブルーハワイ味でこちらもほんのり青に色づき入居者さんは「甘くておいしい」「運動会でたべるやつだ!もっとちょうだい」と大好評でした。そして黒の綿あめは

『竹炭の食紅』を使用し、出来上がりの見た目はというと...白と黒の混ざり具合が絶妙で「白髪??」という仕上がり。入居者さんへ持つていくと、白髪にみえるので「きもちわるい」「何これ??」と引かれる様子でなかなか食べてくれませんでした。が、「甘くておいしいですよ」と進めると口の中真っ黒くしながら(見た目はグレーなのに舌は真っ黒になります)「おいしいね」と笑顔で楽しませていました。見た目は全くインスタ映えない綿あめで残念でしたが、楽しい特別喫茶となりました。



白髪?綿菓子です

2018年11月の予定

- 1日 初詣
- 1日~3日 正月遊び
- 7日 七草粥
- 8日 鍋会食(ちゃん)
- 10日 新年会
- 12日 誕生会
- 17日 鏡びらき
- 22日 鍋会食



戸井幼稚園生活発表会 総合練習(リハーサル) カワイイ園児たちに 入居者の皆さんニコニコ



11月9日 もみじ狩りに行ってきました

寒いので車の外には出ませんでしたが函館牛乳で暖ったか〜 お汁粉を食べて大満足のひとつきでした

(いつも笑顔で元気いっぱい。必要な物は段ボールで作る栄養士・高木)

入居者エピソード その6

入居してまだ日の浅いトミさんですが、潮寿荘の生活にも慣れてきた様子で最近はずっと笑顔を見せてくれる事が多くなりました。今回はそんなトミさんが入居して来て間もない頃のエピソードを紹介します。潮寿荘にはトミさんの昔からの顔なじみがいて、来た当初はその方の事を良く気にかけていたのですが「顔は覚えてるけど名前が思い出せない」と度々、その方の名前を聞いていました。私が夜勤の時もナースコールで呼ばれてお部屋に何うとその方の名前を聞かれたのでお答えすると「何度も聞いてすまないね。何回聞いても忘れてしまうんだ」と笑い

ながら話されていました。同じ事が2〜3回続き、再度ナースコールでトミさんの部屋に何うと「兄さん、名前忘れたから教えてくれ」との事。私はてっきり顔なじみの方の名前だと思い答えたのですが「違う、その人でなくて」とうろやうろした様子。誰の名前を知りたいのか聞くと「私の名前だ。頼むから教えてくれ」たぶん私が面食らった顔をしてしまったのでしよう。トミさんは「そんな顔しないでくれ。人の名前ばっか聞いてたら自分の名前忘れてしまったんだ」私が名前を教えると「そうだそうだ。思い出した。ありがとうな。」ととても良い笑顔でお礼を言われました。翌朝、トミさんを起こしに行くと「兄さん、昨日はありがとうな。兄さんも大事なことを忘れないようにしてな」忘れる事が多い私には耳が痛い言葉でしたが、同時にありがたい言葉でもありました。トミさんが仰ってくれたようになるべく忘れ物が無いように過ごしていきたいと思えます。

(といつつ、今年余裕でケアマネ試験に合格した介護士・渡辺)

ご寄付ありがとうございます。

- ◎松尾勝代様 ◎伊藤雅夫様
- ◎大明工業(株)様 ◎中村米美様
- ◎北海道リハビリ様 ◎瀬下裕子様
- ◎佐々木夕起子様 ◎野登郁子様